

鹿児島大学病院広報誌

だより

鹿児島大学医学部・歯学部附属病院広報委員会広報誌編集部会

37号
2015.4



目次

【診療科・部門紹介】

- ▶▶ 歯科技工部門
- ▶▶ 検査部
- ▶▶ 栄養管理室
- ▶▶ 歯科麻酔科
- ▶▶ 放射線部
- ▶▶ 呼吸器外科

- 看護職の国際的視点を培う
- 錦江湾魚ごよみ

理念

鹿児島大学病院は、21世紀に輝くヒューマン・トータルケア病院の構築を目指し、医療人の育成及び医学・歯学の研究の充実と発展に貢献すると共に、常に患者さん本位の原点に立った、質の高い医療を提供します。

基本方針

1. 患者さんの権利を尊重し、安心して安全な納得のいく治療を心がけます。
2. 質の高い医療、先進的医療の充実を図り、地域の中核的医療機関として貢献します。
3. 教育・研修病院として、地域の医療機関との連携を図り、人間性豊かな使命感にあふれる医療人を育成します。
4. 診療を通じてわが国の医学・歯学の研究を推進し、医学・歯学及び医療の国際貢献を目指します。
5. 安全で効率の高い病院運営体制を確立します。

患者さんの権利と責務

〈患者さんの権利〉

1. 良質な医療を公平に受ける権利
2. 人としての尊厳を尊重される権利
3. プライバシーや個人情報保護される権利
4. 自分の状態や診療内容について説明と情報提供を受ける権利
5. 自分の意思で医療を選択する権利

〈患者さんの責務〉

1. 自分の健康状態についてできる限り正確な情報を提供する責務
2. 当院の規則を守り、迷惑行為を慎む責務
3. 診療費を速やかに支払う責務

患者さんに合わせた 補綴物を製作する“縁の下の力持ち”

臨床技術部 歯科技工部門

歯科技工部門は臨床技術部に属し、現在は5名で構成されています。歯科医師が採った型をもとに、個々の患者さんに合わせた補綴物(固定性のクラウンやブリッジ、取り外し式の義歯、その他)を製作することが主な業務で、一連の歯科医療の最終段階を担い、“縁の下の力持ち”とも言われています。歯並びは顔の外観や表情にとっても大きく影響を与えるので、患者さんの要望もできるだけ取り入れながら、口腔内の状況に合った補綴物の製作に努めています。歯科技工はこれまで手作業で行われてきましたが、最近ではデジタル化への移行も進み、技工士の業務内容にも変化が起こっています。コンピューターの支援による設計・製作を行うCAD/CAMシステムをはじめ、3Dプリンターも浸透しつつあります。これらの技術を使いこなすことは、修復物の製作だけでなく、外科手術に際してのシミュレーションへの貢献も可能となりそうです。今後も大学病院の歯科技工士として幅広い要求に応えるためにスキルアップしてまいります。



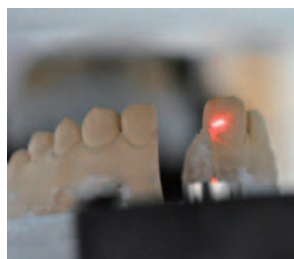
スタッフ



技工士が作った歯はどれでしょう？



スキャナー



模型のスキャニング



PC上で補綴物の設計

5月7日より検査部 生理検査室の 検査機器が新しくなります

検査部

検査部 生理検査室では5月の連休明けから全ての検査機器が新しくなります。

今まで行ってきた心電図、呼吸機能、脳波等の検査機器はもちろんのこと、それに加えて新しく導入される機器もあります。呼吸機能検査では気管支喘息やCOPD(肺気腫、慢性気管支炎)に有用な肺の末梢気道の機能を評価する呼吸抵抗検査装置や気道抵抗を測定する体プレシスモグラフ検査が新しく導入されます。

また、24時間心電図を記録し不整脈の出現頻度や狭心症等の検出を行うホルター心電図検査では、患者さんの負担が軽減されるように装着する記録機が現在の物よりもさらに小さく軽量化したものを使用します。検査結果に関しては大まかなものが1~2分で表示され、危険な不整脈等があった場合はいち早く臨床の先生方にお伝えすることが出来るようになります。

最後になりますが、検査室での受付け時に生理検査室で行う検査項目を印刷した検査一覧表を各患者さんにお渡しします。それにより自分にはどんな検査があるのかが現在よりも分かりやすくなると同時に検査の漏れを防ぐことが出来るように工夫いたしました。生理検査室では今後もより正確かつ迅速に検査が出来るように努力していきますので宜しくお願いいたします。

心とからだにやさしい食を考える

栄養管理室

栄養管理室は中央診療施設等に属し、管理栄養士が医科9名、歯科1名、霧島リハビリテーションセンター1名で多職種と連携し、栄養管理部門を担っています。平成24年度、治療効果を上げる栄養管理が重要であると、診療報酬改定が行われ、鹿児島大学病院では管理栄養士1名が2病棟を担当するようになりました。患者さんとのコミュニケーションを大切に、個々に応じた栄養管理に取り組んでいます。

給食管理部門を給食会社に全面委託し、安全安心を第一に、生鮮野菜を使用し、手作りのコロツケなど、懐かしい家庭料理を基本にしています。複雑な疾患の治療食に関しては、食事性アレルギーや食事形態別に対応し、1日約1500食を配膳しています。医科栄養管理室は平成25年12月新病棟に移転しました。鹿児島大学独自の『調理現場支援システム』は、刻々と変わる食事情報をスタッフが共有し、連携を円滑にしています。

最近は特に、治療と予防のために、自分に合ったより良い食生活にむけて『簡単でわかりやすく、楽しい』をコンセプトに、続けられる栄養指導と調理実習に力を入れるようになりました。多数のフードモデルが人気で、少しの工夫で「おいしい、楽しい」～心とからだにやさしい食～を提案しています。消費税が上がり、気候の変化で高騰する食材もあり、必要な野菜や果物を買って控えてしまうなどの偏りもみられ、生活習慣病だけでなく、低栄養や機能の低下を助長する食環境も心配です。何らかの理由で食べられなくなったり、調理ができないなど、さまざまな問題をそれぞれの状況で考える必要があります。継続的に栄養指導を行う栄養管理室であり続けるために、学会や勉強会などで最新の情報も収集しております。お困りのことがありましたら、気軽に栄養指導や調理実習などを主治医へお申し込み下さい。



CPRコールシステム

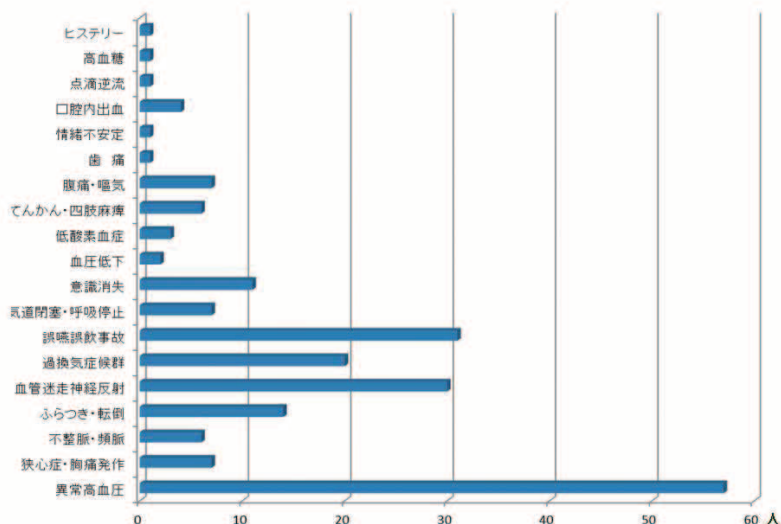
歯科麻酔科

当科では、「安全な歯科治療」をめざして救急コール体制(通称CPRコールシステム)を運用しています。

歯科治療に対する精神緊張や注射時の痛みにより、心臓がドキドキしたり、血圧が上がったり、血の気が引いたり、息苦しくなることがあります。治療中に使用する薬物でアレルギー反応が起こることもあります。当科では、患者さんが「気分が悪い」と感じたとき、すばやく救急処置を行うことができるようにCPRコールシステムを整えています。

平成7年から平成26年までの20年間のデータを分析した結果、歯科治療時に起こる全身的偶発症の中で最も多かったのは著しい血圧上昇でした。社会の高齢化を反映しているのかもしれませんが。次が歯科的異物の誤嚥誤飲事故でした。これも高齢の患者さんに多くみられました。そして、血管迷走神経反射(いわゆる急性脳貧血)と過換気発作の順でした。

患者さんが安心して歯科治療を受けることができるようにCPRコールシステムによるバックアップ体制を整備しています。



劇的に進歩した放射線治療

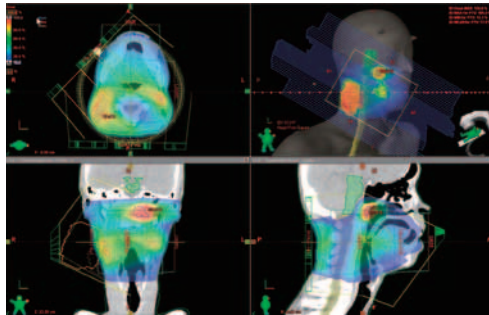
放射線部

放射線治療は、外科手術・化学療法と並び、がん治療の三本柱の一つとして、重要な役割を担っています。我が国の放射線治療患者の割合は欧米諸国に比較して低いものの、放射線治療患者数は、年々増加しています。当院でも、2007年の「がん対策基本法」の施行時期から高精度放射線治療に移行し、治療件数も増加しています。

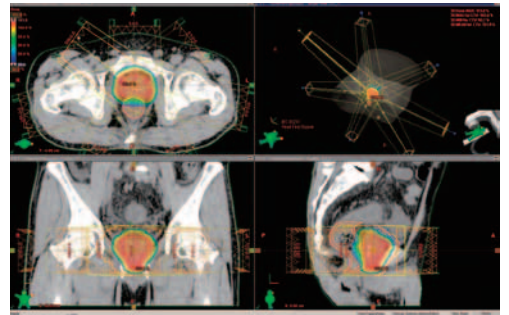
放射線治療とは、X線やガンマ線等の放射線をがん細胞に照射し、がん細胞を死滅させる治療法です。1990年代以前の放射線治療は、がん細胞だけでなく正常細胞も損傷を受けることによって副作用を生じたり、照射による正常細胞への耐容線量（正常な細胞が耐えられる放射線量）を超えないように治療を行うため、治療の効果が期待される線量まで総線量を上げることができず十分な治療効果を得られないこともありました。

しかし近年、当院では高精度治療が可能な最先端の放射線治療装置および高性能な画像診断装置を導入し、周辺機器も含めて高精度放射線治療へ移行しています。最近の医学番組でも取り扱われるIMRT(強度変調放射線治療)も行っており、周囲の正常組織に当たる放射線の量を最小限に抑えながら、がん治療を行っています。IMRTの施設認定を受けて3年目を迎えた昨年は、50件を超えるIMRTを行っています。

今後も、高精度放射線治療をはじめとする質の高い放射線治療を提供し、患者さんに信頼され満足して頂けるように取り組んでいきたいと考えています。



頭頸部腫瘍のIMRT治療計画



前立腺腫瘍のIMRT治療計画

体に優しい肺癌手術

呼吸器外科

日本の癌部位別死亡率では肺癌が第1位で、鹿児島県でも昭和63年以来ずっと肺癌が第1位です。また日本人は生涯のうち、男性で13.5人に1人、女性で32人に1人が肺癌にかかります。一般的に肺癌は早期に見つければ手術、そうでなければ化学療法や放射線療法を行います。進行が早いので、3人に1人しか手術はできません。そのため検診を受け、早期発見することが重要です。当院では比較的早期の肺がんに対し小さな手術創による胸腔鏡下手術を行っています。胸腔鏡下手術とは、胸腔鏡というカメラを胸腔内に入れて、モニターに映る画面を見ながら手術を行う方法で、傷が小さく痛みも少なく、入院期間も短く、早期職場復帰ができます。最近では4個の孔(約7mm、12mm、20mm、35mm)のみによる手術(写真)も、症例を選択して行い、より体に優しい治療ができるようになりました。

なお上記疾患に関することは、お気軽に呼吸器外科外来へご相談下さい。

<初診受付>月・火・水・木曜日(8:30~11:00)

TEL 099-275-5815



看護職の国際的視点を培う

～外国からいらした方々が安心して入院生活を過ごせるように～

国立大学病院の「あるべき姿(役割)」の中に、「地域・社会貢献」と共に「国際化」という重要な使命があります。2020年の東京オリンピックを控え、国は海外からの観光や企業誘致など国際化に向けた取り組みを強化しています。しかし、“外国の方が、急に言葉の通じない異国の地で病気になったら安心して入院できるのだろうか?”と考えさせられます。医療現場での外国人への対応が遅れている現状は否めません。医療・看護を必要とされる方々が安心して受診するためには、その方々の文化・習慣、考え方を知る必要があります。

そこで、看護部では鹿児島大学保健学科と韓国の中央大学校赤十字看護大学間の交流を手掛かりに、平成25年・平成26年ソウル市の中央大学病院と交流を始めました。そして、平成27年1月28日、病院間の学術交流協定を締結しました。病院間の協定は初めてのことで、コメディカルにも学術交流の門戸が開かれた記念すべき協定締結です。お互いの国の文化を知り、今後互いに切磋琢磨して両大学病院の医療・看護を発展させていきたいと考えています。

熊本病院長とキム・ソンドク病院長の調印式の様子



学術交流締結記念講演



キム・ボクソン看護部長より、中央大学病院看護部の活動についてご紹介いただきました。

中央大学校看護学生の施設見学受け入れ



平成25年度中央大学病院訪問
(看護部長・副看護部長2名)

施設見学の前に
鹿児島大学病院・看護部の紹介



手術部の見学



H25年度は3名、H26年度は6名の施設見学を引き受けました。学生たちは日本語を流暢に話し、韓国との語学教育の違いを痛感しました。見学後「2人でみる体制は安心できる」と日本の看護体制に関心を示していました。



韓国のインターネットに掲載されました。

クツワハゼのなわばり闘争

春です。水深 2m の砂泥の海底には、春の日が織り成す光の文様が踊っています。海底を見渡すと、あちこちにクツワハゼたちがいるのが見えます。普段は特に目立つ動きもなく、地味な模様をした彼らは、いつも横目で見ながら通り過ぎる対象です。

ところがどうでしょう。今日の彼らは違います。ひと際大柄なオスたちは、体をほんのりと赤く染め、体側の小さな白点を銀色や紫色に染めているではありませんか。私は、その美しさに思わぬ宝物を発見したような思いで、しばらく観察することにしました。

どうやら彼らは繁殖期に入ったようです。まもなく 2 匹のオスの間で、なわばり争いが始まりました。産卵場所となる一つの岩陰を巡っての真剣勝負です。周りには卵でぽっちゃんとお腹を膨らませたメスたちが見守っています。

2 匹のオスは、鰭を大きく広げて体を大きく見せ、横に並んで、激しく誇示しあいます。それは 30 分も続きましたが、勝負はつきません。2 匹は、いよいよ実力で決着を着けるときがきたようです。じりじりと正面からにじり寄ります。

カメラのファインダーの中に一瞬大きな砂煙が上がりました。何が起こったかわからず 2 匹を見ると、勝ったオスはその場で勝ち誇り、負けたオスは顔色ならぬ体色を薄くして去っていくところでした。

後日、現像があがって見ると、フィルムには 2 匹のオスの目にも止まらぬ渾身の体当たりが焼き付けられていました。それは、普段のクツワハゼのイメージとはかけ離れた、野生を生きるものの迫りに溢れるものでした。



クツワハゼオスの一瞬のなわばり闘争(体長12cm)

TOPICS

夜間火災を想定した防火訓練を実施

鹿児島大学病院のある桜ヶ丘キャンパスでは、毎年2回の防火訓練を実施しています。今年度も6月24日に昼の火災を想定した訓練、2月27日には夜間の火災を想定した訓練が行われ、鹿児島南消防署脇田分遣隊の協力により、消火器を使った実技訓練も実施され、教職員の防火意識の高揚並びに消防用設備等の取扱いの習熟を図ることができました。



広報誌編集部会からのお知らせ

鹿児島大学病院の診療内容、病気について的一般知識など知りたいことがありましたら、お知らせください。

また、「桜ヶ丘だより」への皆様方からのご意見・ご感想をお待ちしております。

鹿児島大学病院広報誌 桜ヶ丘だより〈37号〉

2015(平成27)年4月発行

発行／鹿児島大学医学部・歯学部附属病院広報委員会広報誌編集部会
〒890-8520 鹿児島市桜ヶ丘8丁目35番1号 TEL 099-275-6692

【鹿児島大学病院ホームページアドレス】

<http://com4.kufm.kagoshima-u.ac.jp/>